



地元の川で砂鉄採取

大原小 6年生 たたら製鉄体験前に

一関市大東町の大原小学校(佐藤啓校長、児童95人)の6年生は14日、地元を流れる砂鉄川で砂鉄の採取作業を体験した。たたら製鉄の体験学習の一環で取り組んだもので、16日は本番のたたら製鉄にも臨む。

砂鉄の採取は製鉄体験に先立ち例年8月に行っているが、今年は夏場に雨が続き川の増水が続いていたため、時期を後ろにずらし採取場所も下流側の同町大原

字城戸地内に移動した。同日は6年生12人と教職員、地域に伝わる製鉄文化の継承に励む「ホッパの会(勝部昌平会長)の会員が参加。会員が鍬などを使って川底の石や砂をひっくり返し、児童たちが川底で磁石を動かしながらくつついてくる砂鉄を集めた。

1時間ほどの作業で集まった砂鉄は約30kg。以前は80〜100kgが集まっていたが、最近では児童の数が少

なくなっただけでなく、採取量も減っているという。真剣な表情で砂鉄を集めていた佐々木海斗君は「砂鉄採りは初めて。結構くつついてくる場所もあるので面白い」と感想。小野翔真君は「上流側の方が砂鉄が採れると言われたけど、思ったより多く採れた。16日は大きな鉄の塊ができるといい」と期待していた。

あり、かつてたたら製鉄が盛んに行われた歴史がある。体験学習は統合前の旧内野小時代から続いている取り組みで、今年で24年目。16日の体験学習は砂鉄川最上流部にある砂鉄川たたら製鉄学習館で行う。例年はその年に集めた砂鉄を使っているが、採取した砂鉄の乾燥や調整が必要なため、今年はストックしている砂鉄を使用するという。

産出する砂鉄川の上流部に